

「水遊び」

5月中旬には早くも猛暑日が記録される所もありましたが皆さんの所は如何だったでしょうか。この絵の舞台は東京都立川市と昭島市にまたがる昭和記念公園の一角です。画材探しに出掛けたその日も暑い5月末頃に見かけた、水遊びに夢中の子供達の一コマです。

この公園は昭和天皇在位50年を記念し造られた180haに及ぶ国営公園で、昭和58年に開園しました。現在公園は既成市街地と一体となって緑や水の良好な環境を市民に提供し続けています。ちなみに国営公園は全国に17あるようですが皆さんの所は如何ですか。

この絵を描いていてふと浮かんだ疑問は、「幼い子は どうして水遊びに夢中になる？」ということでした。勿論子供達は最初親に連れて来られ、水遊びを教えられるのですが、後は夢中に遊んでいます。それは、「水面はキラキラしている、透き通って下が見える、どんな形の入れ物にも入る、素手で触っても痛くない、捕まえられない、流れてしまう、自分が中に入って遊ぶこともできる」など、飽きることのない遊び相手として子供達には映っているのだろう、と想像しました。このような取り止めのない理屈は幼子にはどうでも良いことと思いつつ。

見守る大人が居てくれるのを肌で感じてのびのびと遊ぶ子供は、眺める者を幸せにして絵に向かわせてくれました。



菊岡 保人

Size : 530×455mm (F10)

